

経済労働委員会 県内調査概要

①なら歴史芸術文化村にぎわい市場

【調査目的】

なら歴史芸術文化村の概要について

【調査概要】

下記内容について説明を受けながら、施設を案内していただいた。

〈説明の概要〉

- 旬の野菜、新米や茶筌等の伝統工芸品を販売している。
- 週末は県外の方が多く来られる。



②農業研究開発センター

【調査目的】

農業研究開発センターにおける取組について

【調査概要】

下記内容について説明を受けた後、施設を案内していただいた。

〈説明の概要〉

- 奈良県の農業の特色について
 - ・京阪神の大消費地に隣接している立地条件を活かした、集約的で収益性の高い農業生産をしており、主要な農産物は柿、いちご、ほうれん草、菊、ナス、茶があげられる。上位5品目は、米、柿、いちご、牛乳、鶏卵であり、なかでも柿は全国2位の生産を誇っている。
- 農業研究開発センターについて
 - ・大和茶研究センター、大和野菜研究センター、果樹・薬草研究センター、農業研究開発センターの4施設である。

- ・「目標重点化による研究開発の効率化」、「研究ニーズの継続的な収集と課題解決」、「行政・普及と連動した技術普及と学術的成果の情報発信」、「大学・企業等との産学官連携の強化」といった4つの基本方針を定めて研究している。

○具体的な研究内容について

- ・長距離輸送性に優れるイチゴの品質保持技術
- ・一番茶に特化した輸出向け有機栽培体系の確立
- ・枝物の輸出拡大に対応する短期育苗と品質保持技術の開発
- ・奈良オンリーワン酒米品種の育成
- ・吉野葛の科学的評価と栽培技術の確立



③ J Aならけん 西吉野柿選果場

【調査目的】

J Aならけん 西吉野柿選果場における取組について

【調査概要】

下記内容について説明を受けた後、施設を案内していただいた。

〈説明の概要〉

○柿の大産地の五條市、下市町

- ・奈良県は全国第2位の柿産地：面積（1,750ha）、生産量（24,700t）
- ・五條市、下市町は県内の柿栽培面積の約90%を占める大産地
- ・柿栽培の歴史は古く、大正時代の大寒波によりミカン産地が大打撃を受けたことをきっかけに柿への転換が進んだ。
- ・国営総合農地開発事業（S49～H13）により、傾斜が緩やかで作業性に優れる農地が造成され、刀根早生を中心として柿栽培面積が急速に拡大。あわせて、かんがい用水施設である一の木ダムの完成により、干ばつ被害が大きく軽減し、産地の発展に寄与

○柿産地の特徴

- ・柿を主体とした大規模果樹経営
- ・次代の担い手となる20～40歳代の後継者が多く存在
- ・ハウス柿（7月）から刀根早生・平核無・富有、冷蔵富有柿（12月）まで長期間にわたり柿を出荷
- ・スピードスプレヤー（乗用薬剤散布機）や乗用モア（草刈機）等の機械化が進んでおり、作業の省力化が実現

○柿産地への支援

- ・技術の普及支援
 - －着色促進技術の導入　・環状はく皮　・反射マルチ
 - －大苗育苗の導入　・ポット苗による早期成園化を実現
 - －刀根早生の優良系統の導入　・9月中に収穫を終了できる系統を推進
- ・定期講習会の実施
 - －露地とハウス　・せん定、はく皮・摘果及び摘葉・マルチ等の各種講習会
- ・作柄調査の実施
 - －29園地を対象に6～11月の各月2回、果実径、着色度合などを調査

○JAならけん 西吉野柿選果場の設置

- ・H10 年度地域連携確立農業構造改善事業により、旧西吉野村内の4選果場を統合した選果場を設置（H11 年8月完成）
- ・H18 年度には、強い農業づくり交付金により、柿冷蔵用自動袋詰施設を整備。冷蔵柿の長期保存を実現
- ・H24 年度には、産地再生関連施設緊急整備事業により、脱渋保温庫を増設（180t）。これにより、渋柿の脱渋処理効率が向上
- ・H28 年度には、産地パワーアップ事業により、選果レーンを5条×3系列から6条×4系列に増強等を行い、これにより選果能力が大幅に向上

- ・ 今後、A I（人工知能）を活用した選果ラインを導入し、現在雇用労力に頼っている選別作業の大幅な省人化を予定

